

パブリックコメント手続の実施結果について

下記の案件について、市民の意見を募集するパブリックコメント手続を行なったところ、次のとおりご意見をいただき、ご意見に対する結果（意見の概要と市の考え方）をまとめましたので、お知らせします。（なお、意見募集案件以外のご意見は公表いたしません。）

◆ パブリックコメント手続の実施

対象案件	FURANO VISION 2030（第2次富良野市観光振興計画）の策定について
意見募集期間	平成30年11月29日 から 平成30年12月18日 まで
担当部署（問合せ先）	経済部 商工観光課（電話 0167-39-2312）
意見提出件数	意見提出者数 1人（個人）
	意見提出件数 1件

◆ パブリックコメント手続の結果（市民意見提出手続の結果）

提出のあった意見の概要	市の考え方 （原案を修正したときは修正内容）
<p>1.（総論） 今後、人口減少に伴い内需が縮小することが見込まれることから、関係人口のつながりを深め、交流人口を獲得することによって、経済規模を維持さらには発展させ、地域住民の生活と文化を保ち続けることが、子孫に残すこととなる地域財産へとつながっているのでしょうか。 その為には観光が必要でしょうか？ということが言いたいのかと思います。</p> <p>私は、この観光振興計画は、バックキャストिंगの手法を採用しましたが、多面的に考察が行われた経過が積み重なっているとは言い難いと感じています。</p> <p>これまでのやり方や考え方では答えが見つからない問題を議論することや、解決策を見つけるために用いられることが多いバックキャストिंगの手法を採用していますが、コトは反省するところから始まります。過去の経験や現状分析をする視点から検証することを、計画から外してはいけません。</p> <p>又、従来の地域の事情視点から、「顧客中心」の視点で再整理を行ったことについても、地域の事情解決を示すところまでの説明がされておらず、</p>	<p>○10年前、外国人観光客がこれほど増えるとは想定していなかった（※目標7万泊の2倍の約14万泊）ように、激変するグローバル経済やデジタル社会の中で観光は変革し続けており、観光の10年後を正確に見通すことは難しいと言えます。変化に迅速かつ柔軟に対応するため、従来型の計画策定手法をとらず、ビジョン（＝理想像、未来像）をまず策定し、環境変化や優先順位を考慮しながら、数年ごとに策定するアクションプランの中でビジョンの実現に向けた行程を明らかにするという手法をとることといたしました。</p> <p>○今回「FURANO VISION2030 第2次富良野市観光振興計画の策定について」と題してパブリックコメントを実施したため、「計画とはこうあるべき」という観点で、ご指摘いただいたものと理解しておりますが、策定の趣旨を鑑みて、「観光振興計画」という表題を使用せず、「ビジョン」とする取り扱いの方がより実情に近く、適切なものと判断し、今後、市が定めたビジョンとして進行管理してまいります。</p>

協力を得られずに計画が進まない恐れがあります。

こうしたことから、企画書（ある目的を行うための取り組み）であって計画書（ある目標を達成するために方法順序を整えた内容）ではないとの印象を持ちました。

内製による計画作成に限界があるようにも思います。

各年代層による住民が、数多くの知見に触れ、情報を提供し、積極的に議論を重ね、時には専門家の協力を仰ぎ、観光振興計画を策定することを望みます。

行動計画（アクションプラン）も、このあと公表されるということですが、観光振興計画の今後の考えには開発行為に関する記述があり、マチの方向性を大きく左右することであります。観光振興計画と整合性を図り、住民の理解を持って進めていくことを強く望みます。

従いまして、観光振興計画は、再検討を要するとの見解です。

4つの視点が抽象的表現でとてもわかりにくいと思います。

特に、富良野の豊かで多様な資源を、誇りを持って磨き極めあげ

その価値を国内外にわかりやすく伝える…とありますが、

○豊かで多様な資源の定義とは？

計画書の中で、わかりやすく示されていないと思います。

○誇りを持って磨き極めあげ

抽象的な表現の為、具体性に欠けます。どうすると誇りを持てるのか、どう磨き上げていくのか・極めることの指標が見えてきません。

○その価値を国内外にわかりやすく伝える。

「価値」として国内外の方が認識できるものなのか、価値の指標が見えてきません。

私が思い描くビジョンと項目の例を挙げたいと思います。

【富良野が目指す観光のビジョン】

○富良野住民の生活様式と文化が尊重されること

（⇒“住民”にとっての観光の意義）

○富良野の自然資源、文化資源の価値が認められ、永続されること

（⇒“地域”にとっての観光の意義）

○全ての利害関係者が相互に尊重し合える環境が作られること

（⇒“全ての利害関係者”にとっての観光の意義）

○活気に満ちた安定した経済が維持されること

<p>(⇒ “観光産業及び関連産業” にとっての観光の意義) ○旅行者に対して独特で忘れられない充実した経験を提供すること (⇒ “旅行者” にとっての観光の意義)</p> <p>○富良野市における観光振興の意義と役割 ○観光を取り巻く現状と第一次観光振興計画の評価と第二次に向けた課題 ○富良野観光が目指す姿と方向性 ○将来像の実現に向けた観光戦略と施策 ○広域圏観光との連携、エリア別観光振興の方向性 ○計画推進と管理・・地域経済を支える観光産業の更なる振興に向けて、これまでの動向を踏まえ、成果指標を定め、それぞれ目標値を設定することにより、地域が一丸となって進めていける「指標」が必要です。そして、効果測定と評価に留まらず、地域が観光に取り組む目的に沿っているかの地域住民の評価等も入れ、計画管理を行うことが望ましいと思います。</p>	
<p>2. 鉄道主要駅や空港等の交通拠点と目的の観光地を結ぶ交通アクセス（二次交通）について 現在の旭川空港の年間乗降客数は110万人から120万人であります。新ターミナルビル整備により、国際線として1年間に約50万人までのお客さまを受け入れられるようになります。国内線についても、今の倍以上の200万人以上、あるいは250万人ぐらいは受け入れられると想定し、合わせると年間300万人のお客さまを受け入れられる施設が完成します。 旭川空港とのアクセス整備、国際線以上に増加する国内線による移動増をどう取り込んでいくのかには触れられておらず、要因分析が不十分であるように思います。 又、新千歳空港とのアクセスについても、バスであれば乗り換えなし2時間で富良野に到着することが可能ですが、JR利用となると数度の乗り換えが必要となっています。 「交通アクセスの充実＝運行本数の確保、利用しやすい」という視点から、富良野のイメージアップ、付加価値向上、新規顧客獲得（大学生・若者）、リピーター戦略（花観光、北の国からファン）、空港を核とした広域連携等、国内観光客が増加する・増加させたいという課題を位置づけ、検討を加えて欲しいと願います。以前から改善を求められていますが、大きな変化はありません。重要な視点であると思います。</p>	<p>○JR・空港を拠点として二次交通の改善には、広域市町村および各空港・JRやバス・タクシーとの連携が必要となりますので、ビジョンでは言及しておりませんが、引き続き富良野美瑛観光圏を核とした広域連携の枠組みで検討してまいります。</p>

<p>3. グラフ、データ活用 計画書は全体として、データにより紙面を割いていますが、データ数は多くはなく、グラフの使い方 の不適當さや、データより導き出される展開が弱い項目が散見されます。 箇条書きの部分が多く、文章による事業説明が不足し、書かれている文章表現が抽象的であることから、私は内容を理解することができないところがあります。 正しい表現となるように修正を行ってください。 データの引用元の許可を得て、引用資料の明記することを願います。</p> <p>バックキャスティング、スマートウェルネスリゾート等の横文字が多い。注釈をつけて欲しい。 これを機に、この資料に限らず、市役所のオフィシャルな資料では、正しいグラフの使い方をしていただきたいと思います。</p>	<p>○ご指摘のデータおよび引用元の表記は改善してわかりやすく明記してまいります。</p>
<p>(各論)このあとは計画書で気になったところを示しますので、ご検討ください。</p> <p>4. グラフに関して 5. 各ページより (※4. 5. とともに具体的な箇所を指定してご意見をいただきました)</p>	<p>○意見提出者から、(各論)として、ビジョンの中で使用したグラフの修正や改善についての指摘事項(14項目)、ビジョンの記述内容等に対する疑問や指摘事項(37項目)の提出がありました。 これらの指摘事項等については、事項ごとの回答はせず、また、市のホームページにも掲載しませんが、指摘いただいた内容を参考に修正が必要なものについては改め、その他については意見として承ることとさせていただきます。</p>

<input checked="" type="checkbox"/> 広報紙 3月号への掲載
<input checked="" type="checkbox"/> 市のホームページへの掲載 (掲載日 3月 8日)
<input type="checkbox"/> 行政情報コーナー・各支所・文化会館・図書館への供覧・配布 (____月 ____日)